

# 極楽寺だより



2015(平成27)年4月号

発行所：極楽寺 (浄土真宗本願寺派) ☎759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

## 春の永代経法座のご案内

慈しみの光あふれる春となりました。

生命の息吹を感じるとき、お浄土の人となられた

方々が懐かしくしのばれます。

如来さまのおすくいのご恩、お育てのご恩を味わ

い、仏祖のご恩を感謝して、春の永代経法要を次の

とおりおつとめします。お誘いあわせ、お参り下さ

い。

四月二十二日(水)

昼一時半 夜七時半

四月二十三日(木)

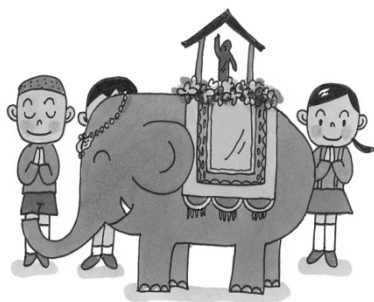
昼一時半

講師 広島山県郡加計町 正覚寺住職

清胤弘英師

## 花まつり

※ 甘茶お持ち帰りをご希望の方は、どうぞお申し出下さい。



四月八日は、お釈迦さまのご誕生を祝う花まつり。花御堂を飾り、お釈迦さまの誕生時のお姿に甘茶をかけてお祝いします。花御堂は、生誕の地「ルンビニーの花園」をあらわし、甘茶は「ご誕生の際に、甘露の雨が降った」という言い伝えによるものです。

極楽寺では、春の法要の二日間、本堂に花御堂を飾ります。

ご自由に甘茶をかけ、お飲み下さい。



オシエノ  
カケラ  
極楽寺だよ  
エッセイ



「花燃ゆ」特集  
お念仏に育てられる



皆さん、NHK大河ドラマ『花燃ゆ』、ご覧に

なられてますか？視聴率が低迷しているようで、

私は心配で夜も眠れません。（というの、大げさですが。）

さて、極楽寺ゆかりの主人公の姉・寿さん（演じるのは優香さん）。

健気な文さんとは対照的に、嫌な役で出てきましたね。トラブルメー

カーの兄・松陰を、温かく見守る家族の中で、唯一ストレートに文句

を言う、気が強い女性に描かれています。実際に、松陰から「褊癖の

気あり」（せっかちで、かたよっている）と指摘された手紙も残って

いますし、「烈婦」「丈夫の如し」という評価がされていますから、

気の強い女性だったのでしょう。

しかしこれは、ドラマのプロデューサー土屋さんが極楽寺に来られ

た時、「最初寿さんは嫌な役で出てきて、それからだんだん成長して

いく。その姉妹の成長も描いていくんだ」と言われていましたから、

これから期待したいと思っています。↘

さて、極楽寺に伝わっている寿さんの書には、熱心な念仏者であつ

た寿さんが、仏法を聞いて、心に残った歌が記されています。心に残つ

た歌ですから、寿さんが作られたものではありません。法座の中で聞

いたり、共に聴聞する仲間（お同行）の中で、伝えられたものです。

その中に、

「癩癩は、持って生れし鈴の玉 当りさわりに鳴るぞ悲しき」

とあります。気の強いと言われた寿さんの、心に残りそうな歌ですよ

ね。私が持って生れたかんしゃく玉は、鈴のように、人に当っては鳴

ってしまふ。それが悲しいと。ところが、この歌の後に、

「その中に、他力の信の玉いれて、また鳴り戻る弥陀の称名」

と続きます。

他力の信というのは、阿弥陀様からいただいた心ということですが。

癩癩玉の代りに、阿弥陀様の心をいただく。すると今度は、「南無

阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と、弥陀の称名、お念仏が出てくる。↙

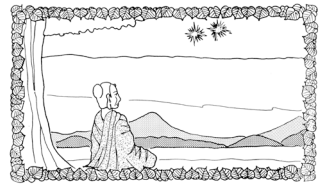
親鸞聖人は、お念仏は私が称となえた念仏ではあるけれども、阿弥あみ陀様ださまからの呼び声であると受け止めなさいと教えて下さいました。つまり、阿弥陀様の心をいただいて、お念仏称えたら、そこに阿弥陀様からの呼び声が聞こえてくる。「また、癩かんじやく癩をおこしていないか?」「大切なことを、見失ってはいないか?」と、阿弥陀様の心が、思い出されてくる。その呼び声に、寿さんは育そだてられたのですね。そして、少しずつ少しずつ、お育てをいただいて、成長していかれたのです。昔の私たちは、こうやって、お念仏に育てられたのです。

NHKのドラマですから、どこまで描えがかれるのかわかりませんが、お念仏に育てられた寿さんが、どのように成長されるのか、楽しみにしましょう。それにしても、とても見応みこたえのあるドラマですから、もう少し視聴しちやうりき率があがってもいいと思うのですが。 ■



日曜日の夜八時は、  
大河ドラマ『花燃ゆ』を!

皆さん、オシエノカケラでは、『毎日お参りしましょうキャンペーン』を、連載していたのを覚えておられますか? (もう忘れられているかも…)  
実は、もう最終回分の原稿はできあがっているのですが、今年ばかりは『花燃ゆ』関連を書かなくてはなりません。いずれ復活させますので、どうか皆さん忘れないうべくだうぞ。 ■



## 極楽寺揭示伝道 けいじてんどう



## 4月の言葉

自己主張の時代です。学校でも「自分の意見をはっきり言える人間になる」ことが、目標としてあげられています。日本人は自己主張が下手だと言われますから、グローバル化が進むことで、自分の意思を伝える技術の獲得が求められたのでしよう。しかし、自己主張とは、単に自分だけの意見を主張することではないはず。私には、言いたいことがある「ならば、「あなたにも、言いたいことがある」はずだからです。つまり、相手の主張を汲み取る姿勢が同時に求められなければ、単なる我が儘な言い分にしかなりません。

ところがTVでは、政治討論番組に代表されるように、相手をこきおろし、相手の意見をさえぎり、「誰がいちばん非情で致命的な批判を、傷跡が縫えないほどに切れ味のよ

主張が下手なのだ、つくづく思います。華やかに主張し、注目を浴びる。それがいつしか勝ち組の様相を呈していき、気がつけば「人を殺したのは、目立ちたかったから」とまでいう人間が出てきてしまいました。そこまでしなれば、自分の存在を確認できないと思っ

ているのでしょうか。地味でも、ささやかでも、人生の手触りや手応えを感じられる生き方があったはず。縁の下の力持ち」や「お陰さま」と、尊んできた歴史もありました。そんな生き方が、いつしか馬鹿にされ、捨てられたことで、人を傷つけ自分を主張することしか「生きる実感」を得られなくなったのかもしれない。

先日、九十歳を越えられ、お寺参りもで

きなくなられたお婆ちゃんのお宅に伺い、久しぶりにお会いすることができました。手を合わせお念仏を称える姿には温もりがあり、深い年輪を感じさせ、一朝一夕には成り立たない味わいが伝わってきました。仏教には、薫習という言葉があります。薫りが染み込むように、時間をかけて教えが身体に染み込み、その薫りがまた次の人に染み込んでいくように伝わっていく。それは、長い仏法の歴史に生きるということなのでしょう。華やかではなくても、目立たなくても、そこにはいのちの歴史の中に自分の姿を見出した、確かな足取りがあります。

仏様に呼びかけられている。大きないのちの歴史に呼びかけられ、支えられ、生かされている。その実感を味わう時、一人でありながら独りではないのです。華やかな自己主張をしなくても、自分の人生に確かな手応えを感じる事ができる世界があるのです。姿よ

り、薫りに生きる道がある。その歴史を見失ってはいないでしょうか。 ■



## 3月の言葉

「人間は死ぬんだ」ということは、誰もが頭ではわかっています。しかし、大切な人を亡くした時、「人間は死ぬからね」とクールに割り切り、言い放つ人を見たことがあります。(言える人がいるとしたら、それはうまく表現できないからか、もしくは大切に思っていないからでしょう。)頭では理解していても、別れの事実を突き付けられたら、やはり悲しい。それが人間です。

つまり、知識として知っているとということ、本当に知っているととは違うのです。にも関わらず、理論や理屈で知ったつもりになっている。現代社会に生きる私たちは、そんな生き方をして

はいないでしょうか。

仏教には、たくさん宗派があります。すべて、「仏に成る(成仏する)」ことを目指す教えです。ちょうど山の頂上を目指して登るのに、いくつもの道があるのと同じだと言えるでしょう。だから、「行きつくところは同じであれば、どこを歩いても一緒だろう。」と言われる方がありません。しかしそれは、遠くから山を見ているか、地図の上でわかっているつもりになっている人の言い分でしょうかありません。

実際に山を歩けば、思わぬところに藪がある、岩が道を塞いでいる、そんなトラブルはいくらでもあります。遠くからは平坦に見えても、段差や穴があったりもします。一歩踏み出さなくては、わからないことだらけです。何より、たくさん道があったとしても、歩む道は

ひとつ。そして、それが自分の分限に合うものでなかったら、何の意味もありません。元気な時にはヒラリと飛び越せる小川も、軽々と登れる岩場も、疲れたり、病気になったり、歳をとれば、大きな障害となつて立ちはだかつてきます。いくら道を知っていても、実際に歩くこととは違うのです。

人間は、生身の身体があります。いつまでも起きてはいられませんし、長時間、飲まず食わずで過ごすことはできません。病気にもなれば、歳もとる。感情もあるし、思い入れもある。いつも合理的にはふるまえませんし、つまらない事に落ち込み、くだらない事に怒ります。そして、大切な人を亡くしたら、つらく悲しい。それが、人間という生き物の事実です。

しかし、現代社会にはびこるグローバリズムが求めているものは、低賃金で、素早く合理的に働き、文句も言わずに会社の利益のためにふるまう人材です。家族の介護も、大切な人の死も、地域の人々との支え合いも、すべて会社の利益の邪魔にならない範囲で行われなければならぬ。その考え方が、深く浸透してはいないでしょうか。それは、人間を見失った有り方でしょう。人間の事実を前提にものを考えるのではなく、生身を離れた理論や理屈が優先される。生きづらいはずです。

親鸞聖人という方は、人間が本来持っている弱さ、愚かさ、醜さ、悲しさ、切なさを大切にされた方でした。生身の人間の事実から目を背けられなかったのです。そして、この「われら」が救われる道を仏法に問い直される中で、お念

仏の道と出遇われたのです。

聖人が歩まれたその道は、後に多くの人々によって踏み固められ、長い歴史を通して私たちのところにまで至り届けられました。

その道に実際に一歩を踏み出した時、世界は大きく変わって見えくるはずです。大切にすべきは何なのか。悲しむべきは何なのか。■



「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ 極楽寺掲示伝道

俵 万智 「サラダ記念日」

## 2月の言葉

長男が、野球の試合で膝の靭帯を痛めました。しばらく固定し、安静にしていたのですが、友人に紹介された整骨院に連れて行くことにしました。固まった膝をほぐすには、痛みが伴います。それは傍から見ても、本当につらそうです。でも先生は「我慢しろ」とは、言われませんでした。「こりや痛いよな。痛い、痛い。痛いなあ。痛いなあ。」と言いながら、治療されるのです。治療を終えた息子は言いました。「痛かった。でも、先生の言葉があったら、何とか耐えられた。」と。一緒に「痛い」と言ってくれる人がいることが、痛みを耐える力になるのですね。とても大切なことを、教えてもらいました。

長年、福岡県でチャイルドライン（いじめや児童虐待など、悩みを持つ子どもたちに寄り添い、耳を傾ける電話相談の慈善活動）に取り組んでおられる山口祐二さんは、電話をかけてきた子どもの言葉を、ただ繰り返し返すことが、信頼関係を作るのにとっても重要であると感じ指摘しておられます。聴いてもらっている、受け容れてもらえているという実感が生まれるからだそうです。逆に、言うてはならないのが「わかる、わかるよ」という言葉。かえって「お前なんか、何がわかるんだ」と反感を生むのだそうです。

（『チャイルドラインで学んだ子どもの気持ちを聴くスキル』山口祐二著 ミネルヴァ書房）

「寒いね」と話しかけたとき、「寒いね」と返ってくる。痛い時には「そうか、痛いなあ」と受け止めてくれる。何の意味もない会話のようですが、そのやりとり中で、自分がつながりの中にあることが実感されるのでしよう。自分の存在が承認され、受け容れ

られていることが分かるのでしよう。言語学者のローマン・ヤコブソンは、これを「交話的機能」と言っておられるようですが、自分のメッセージを受け容れてくれる他者がかたわらにいる、ただそれだけのことが、生きる上でとても大切なことだと知らされます。

親鸞聖人がお亡くなりになる時に、遺されたとして伝わっている『御臨末の御書』というものがあります。有名な「一人居て喜ばは二人と思うべし、二人居て喜ばは三人と思うべし、その一人は親鸞なり。」という言葉です。これは後に、偽物だということが明らかになりました。しかし、この言葉が長く親鸞聖人の言葉として伝えられたのは、「親鸞様なら、きっと言われるだろう」と皆が思っていたということなのでしょう。聖人の生き様に、私に寄り添い、私を受け容れて下さる“あたたかさ”を感じ取られていたからではなかったでしょうか。

「南無阿弥陀仏」と称え、お念仏に込められた阿弥陀如来や親鸞聖人のよびかけを感じる。共に生きて下さる温もりを感じていく。「私がさびしいときに、仏さまはさびしいの」（『さびしいとき』金子みすゞ）と思える。ただそれだけのこともかもしれませんが、そこから生きる力をいただかれた先輩方の歩みがあり、後に歩む者の生きる力を生みだしました。その歴史が、今私たちのところまで、至り届いているのです。大切に受けとめていきたいものです。 ■



# 楫取素彦と妻寿 展

## ゴールデンウィークに、新企画！

現在、長門市三隅・村田清風記念館で開催されている『楫取素彦と妻・寿展』が、ゴールデンウィークに新企画を計画しているという情報を入手しました。隣接している三隅山荘（村田清風の旧宅）で、NHKのドラマパネル展が行われるよ

うです。歴史的な古い建物でのパネル展とは、斬新な企画ですね。抹茶の接待もあるとか。また、企画展では、新たな資料展示やパネル展示も行われるようです。模様替えは、8月と11月にも行われる予定だとか。9月末までは、原則火曜日に住職が案内役として出勤しております。ぜひ、お越し下さい。■



極楽寺ホームページ  
<http://gokurakuji.com/>

極楽寺だよりの過去の記事をはじめ、大河ドラマ『花燃ゆ』の情報など、盛りだくさんの内容です。

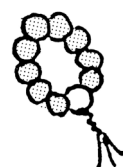


極楽寺だよりを送riませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺から、直接郵送します。

お寺まで、お持ち下さい。

お念珠 修理いたします。



□ 3月20日に、報恩寺と合同で『花燃ゆ』バスツアーと題し、清風記念館と二条窪・桜楓山荘跡地、そして萩のドラマ館に行ってきました。大変喜んでいただき、企画した側もうれしい限りです。また何か、企画を考えたいと思っています。□ 企画展実行委員会の出張で、東京・群馬へ行ってきました。これで、防府・萩・群馬のドラマ館をコンプリート！あくまでも私見ですが、群馬のドラマ館が一番よく出来ていたように思えました。でも、東京って、どうしてあんなに人が多いのでしょうか。やっぱり、田舎が一番いいです。(住職)